



統計コラム 第10回 EBPMってなんだろ？

最近、カタカナ用語と共にアルファベット表記の言葉を目に耳にすることが多くありませんか。筆者が子供だった頃（昭和40～50年代）を思い起こしてみたのですが、UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）とかYMCA（キリスト教青年会）とか、あるいはVSOP（ベリー・スペシャル・ワン・パターン）なんていうギャグ調のものしか頭に浮かんでできません。（苦笑）

新しい言葉はどれも、最初は何のことだか分からなくて馴染みも湧いてこないものですが、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）やLCC（格安航空会社）、CEO（最高経営責任者）やTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）あたりはすっかり一般化されています。また、LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーのそれぞれの頭文字からとったセクシャルマイノリティの総称）あたりも普通に通用するし、世俗的なものとしてはJK（女子高生）なんていうものもあります。（笑）

そしていま、筆者のまわりでの新しい言葉といえばSDGs（持続可能な開発目標）やCSF（旧、豚コレラ）などであり、今日のテーマのEBPMもそのひとつです。

…で、そのEBPMですが、これはエビデンス・ベースト・ポリシー・メイキングの頭文字を並べたもので、『証拠に基づく政策立案』という意味で使われています。

内閣府をはじめとした各府省はいま、「政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確にしたうえで合理的根拠（エビデンス）に基づくものとする」という方針を掲げています。情報や統計等のデータを活用して政策の有効性を高めることにより、国民の行政への関心を高め、信頼確保に繋げて行こうというものです。

ハコモノを造るにあたっての来場者数、道路を造るにあたっての交通量など、事前の想定と現実の数値の乖離を無くすことにより、限られた予算の中で国民が本当に求めていることをより効率的に実現させること、その第一歩がEBPMの推進なのです。

さあ大変ですよ、世の中にはデータがあふれています。不正確なものや出所の怪しいもの、もっと言うと悪意を持った者が作ったフェイクデータもあります。その膨大なデータの中から、正しいものを見極めて拾い上げなくてはなりません。かつ、自分に都合の良いデータを拾うのではなく、万人の誰もが納得できる根拠となるものでなくてはなりません。ただ単に表面的な数字を見るのではなく、その背景にあるものを読み取ったり、分析したりすることも必要となってくるでしょう。多種多様な意見や要望に対して、限られた予算の中でより効率的に、時には優先順位をつけて、政策を企画立案し実現して行くことが求められ、さらにはその判断を行った根拠（統計データ等）にも整合性が求められるわけです。さあ、皆さん、ホントに大変ですよ！

ゴメンなさい、どこかからコピペしてきたような硬い話が長々と続いてしまいました、身近なところへ話題を戻します。

例えば、毎月の小遣いが足りずにカツカツだとお嘆きの貴兄、「EBPMで赤字解消」を目指すというのはいかがでしょうか。それにはまず、支出を「見える化」します。お小

遣い帳などをつけるのが最適ですが、昨今主流となりつつあるキャッシュレス決済を利用すれば、カード会社が支払履歴を管理してくれます。「公営ギャンブルで□□円」「××嬢と食事で■■円」というように、お小遣いの使途と金額を一覧にします。

続いて、収入を「明確化」します。「財務大臣(奥様)から○○円」「出張旅費の入金口座から●●円」「昔に預かった子供のお年玉口座から▲▲円」という具合に、入金経路と金額を一覧にします。できれば附属資料として長期時系列表を作成のうえ、物価上昇率と比較などしてみるとより効果的でしょう。

最後に収支計算を行い、赤字の額を具体的な数字で示し、補填方法を「タンスの下のへそくり現金から◎◎円補填」というふうに明らかにし、できれば過去の交渉結果資料なども作成してみましよう。

さあ、手持ち資料は整いました。折りしも春闘の季節、賃上げ交渉には最適かも。交渉結果はあとでそっと教えてくださいね。